

チームでつかんだ、全国大会3位入賞と大きな成長
目指すは、世界をリードする
エンジニア!



将来、世界をリードするエンジニアの育成を目的に平成13年から始まった、ロボットや家電などを制御するソフトウェアの設計技術を競うロボットコンテスト「ETTロボコン2020（組込みシステム技術協会主催）」。

昨年11月、高校や専門学校、大学、企業など183チームが参加した同コンテストに、都城コアカレッジ情報デザイン科2年生2チームもエントリー。そのうち、重満楓大さん、福満活伊さん、田代友紀さんのチームが激戦を勝ち抜き、コア学園では初となるエントリークラス競技部門全国3位入賞という快挙を成し遂げました。

昨年で19回目となった同コンテストは、コロナ禍の影響で共通のロボットを用いて実際に走行させる競技から、パソコン上で走行する競技（シミュレーション）に変更。難易度順にエントリークラス、プライマ

リークラス、アドバンストクラスがあり、ソフトウェアの設計（モデル）、タイム（競技）、モデルと競技（総合）の3部門で競いました。

都城コアカレッジ情報デザイン科では、技術の向上と協調性を学ぶ体験実習の一環として、5年前から同コンテストに参加。今回入賞したチームは、ソフトウェア設計担当の重満さん、プログラム担当の田代さん、チームをサポートする福満さんの3人で結成し、昨年5月から大会に向けて準備を進めてきました。

Smiling faces of miyakonojo



当初、学校でも学習しないプログラミング言語に戸惑い、思うように開発が進みませんでした。3人で何度も話し合いながら、指導講師に相談したり、参加者専用のオンライン授業を受けたりしたことで、設計や競技に必要な知識を習得。

にもかかわらず、シミュレーションテストでは、制御が安定せず失敗と成功を繰り返しました。「決勝進出という目標があったからこそ、気持ちの一つに困難を乗り越えられた」と声をそろえる3人。諦めることなく、何度もプログラムを調整し、さまざまな環境に対応できるソフトウェアの開発に成功しました。

10月に開催された地区予選では、障害物を次々とクリア。チーム最高タイムも記録し、決勝大会競技部門3位獲得という大きな成果へとつなげました。



シミュレーション走行のイメージ



都城コアカレッジ情報デザイン科
2年生チーム「Re:MCC_Beta」
(右から田代友紀さん、重満楓大さん、福満活伊さん)
※情報デザイン科は4月から「ICTエンジニア科」に名称変更されます

重満さん、福満さんは「結果が残せて自信につながった」、田代さんは「指示通りにロボットを動かせたことが結果につながった」と、最高の笑顔を見せる3人。都城コアカレッジ情報デザイン科担任で、同コンテスト実行委員を務める原口桂一郎講師は「大会に出場したことで、ものづくりに対する自信と協調性が高まった」と、生徒らの成長に手応えを感じていました。

この貴重な経験を胸に、今春、卒業を迎える2年生。ものづくりの楽しさを学び、大会出場で培った経験を先輩に継承しながら、地元「都城」で活躍できるエンジニアを目指し、社会へと羽ばたきます。